

第1学年「国語」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析） ← 当面の間、昨年度の1年生の実態より転載

- 成果** ○ 平仮名や音読の学習を楽しみにしている児童が多い。
○ 小グループで話をするのが好きな児童が多い。
- 課題** ▼ 全体の前で自分の考えを話すことが苦手な児童がいる。
▼ 大事なことを捉えながら、話を聞くことが苦手な児童がいる。
▼ 平仮名が定着していない児童がいる。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 自分の思いを話したり、書いたりして表現できる。
- ◇ 大事なことを捉え、最後まで話を聞くことができる。
- ◇ 平仮名やカタカナ、漢字を正しく使うことができる。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 「話す聞くスキル」を用いて音読や暗唱に取り組ませることで、すすんで伝えようとする態度を育んでいく。
- 児童の生活体験から問いをたて、めあてと結びつけていくことで、学習したことを生活の中で生かせるようにしていく。

言語活動の工夫

- 短作文ノートのテーマを教科横断的に設定し、有効に活用していくことで、自分の思いを書く力を養っていく。
- ペアでの学習場面を多く設定し、自分の思いを伝えたり相手の思いを聞いたりする力を養っていく。
- 学年の言語担当の教員を決め、年間を通して全児童に一貫した学習の場を提供することで、基礎基本の定着を図っていく。

ICT活用の工夫

- 文字指導の際に、デジタル教材を活用することで、書くことへの苦手意識を減らしていく。
- 考えを書き出したり、まとめたりする際に、タブレット端末上で行うことにより、個別最適な学習の場を確保していく。

課題解決力育成の工夫

- 初発の感想での児童の「問い」を大切に、学習課題を設定して学びに向かうというサイクルを身に付けさせる。

達成目標

- 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
- 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養う。
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。